

三本槍岳

M・T

期 日：5月1日（木） 早朝霧雨→晴れ

コース：峠の茶屋駐車場8：36→峰の茶屋避難小屋9：38→朝日岳11：02→熊見曾根11：28→清水平11：49→北温泉分岐12：03→三本槍岳12：49→北湯分岐13：38→スタレ山13：53→中大倉山14：40→北湯15：30

報 告：家を出る時から雨が降ったり止んだりであり期待の出来る天気では無かった。それでも好転する予報を信じて峠の茶屋駐車場でレインウエアー上下着用し出発。登山道の初めはこんな状態。



遠くに見えるのが峰の茶屋跡避難小屋。左手の雪渓を横切るが踏み後はっきりし雪も腐っているので怖くない。昨年に比べ今年は風が弱く歩きやすかった。昨年は雨・風が強くてよほどの思いで避難小屋にたどり着いたが無理はしないと引き返した。結構弱気です。今回は雨も止んできているので様子を見ながら歩けるところ迄行くことにする。遠望した雪渓を通り過ぎ振り返る。

峰の茶屋跡避難小屋までの雪渓が雪もゆるみ何ということなく通過できたので次の雪渓もアイゼン付けずに大丈夫と判断。雪渓に突入する。これが大間違い。10歩進んだ所で余りの斜度に恐怖感を感じ雪を蹴って靴を安定させることも足が強張る恐怖。引き返したい。ところが急斜面の雪渓でUターンすることは進むより危険。大体どうしたら向きを変えられるかわからない。仕方なく暫し佇み気持ちを落ち着かせゆっくりキックを繰り返し進む。この雪渓は「踏み後も無く自分でルートを作りながら進んだ。



中央の白い部分が私の靴跡。



振り返った写真。遠くに先程の避難小屋が見える。山で手抜きは命の危険がある事が身に染みた。短い雪渓だと高を括り危険に身を曝した。雪渓のうえで一人足が強張り気持ちまで震える思いがした。2枚の雪渓の写真を比べると斜度があまりにも違う。自分を過信するな！で次はアイゼン付けるぞー！と猛反省。

誰も居ないので落ちてても時間が過ぎるだけで・・・・・・・・・・、大体、だれにも迷惑を掛けたく無い短い間に色々な思いが脳裏を横切る。高度恐怖症の自分を忘れていた。私は高度恐怖症。

左上は振り返って撮った写真。

先程の雪渓より長い。もちろん躊躇なく6本刃アイゼン付ける。今度は落ち着いて横切る事が出来た。アイゼンの雪に突き刺さる感触がこんなにも優しく心強いとは思っていなかった。ありがとうアイゼン様さま。振り返ってまた雪渓写真。茶臼岳の噴煙が見える。天気は回復した。



これから向かう朝日岳の荒々しい姿。さっきの恐怖心はこの時はすっかり忘れている。





頑張ってセルフタイマー。どこにいればいいのかわからない。

こんな道は注意さえすれば足がすくむ恐怖は無い。楽しい山道です。遠くに茶臼岳ロープウェイ山頂駅が見える。



歩いて来た道を振り返る。ルートが見える。



穏やかな表情の三本槍岳。ところが三本槍岳までの道がぬかるみで酷い。太腿迄潜る程、雪が深い所もあれば昔の田植えはこんなかと思うほどの泥濘で靴ひもの上迄泥に潜り足が抜けない。次の足も潜る。雪で綺麗になる暇もなくドロドロの靴となるし、重たくもなる。



ブスブス、ヌルヌルを我慢して辿り着いた三本槍岳。





風をよけてハイマツの間で昼食。三本槍岳山頂の様子。今日は朝見かけた3人以外人の様子は無い。時間も無いので早々に食事を終え、北湯に向かう。もう一度雪渓を戻って茶臼岳ロープウェイ駅へ行くのは厭だ。そんな気力はもう無い。楽だと思おう方を選ぶ。中の大倉尾根へ向かう途中のスダレ山標識。(1880m峰)

赤面山への標識は倒れていた。赤面山方面は雪が深そう。



ルートが真っ直ぐ通っているとは限らないが。ルート捜しでいくらか時間を取られてまたまた心細くなって来る。遠くに夏道らしきを見つけた時のホットする気持ち。やっぱり一人より



しかし私の行く方向も雪。コンパスだけが頼り。あっちに行きたいだけでルートを探す。



2人二人より3人で有る。山は雪の 때가最高と思ったりするが一人では最悪かもしれない。雪景色を楽しむ余裕もなくなる。昔のようにこの厳しさが好きとか思わない。力不足を感じる時でもある。不安になると落ち着いて地図が読めない。ただでさえ、自分の位置を把握するのが上手く出来ないのだから。



やっと、雪の中道なき道を脱出しこんなところに来ると生きて帰れると嬉しくなる。あの雲のようにもくもくと湧いていた不安感は那須の風に吹き飛ばされる。気持ちいいなー！しかし、またすぐにこんな状態。信じられない。



またまた、コンパスさんに助けを求めうろうろする。木の幹に赤いテープを見つけた時は嬉しい。中の大倉山迄来れば何も怖いもの無し。近くに営業しているかどうかわからないがスキー場は有るし、北湯目指して一目散に駆け下りることが出来ると思う。

中の大倉山から北湯までの道は歩きやすい道でスタスタ歩ける。北温泉は古い一軒宿で明治、大正、昭和の部屋と選べる。今回は宿泊しないが前回大正時代の部屋に泊まった。



露天風呂は丸見えおまけに混浴なので水着持参くださいと勧められたが、遠慮しておいた。楽しく、怖い、時々手足心が震える程の緊張の有った山行でした。